

第 43 期第 7 回理事会議事録

日 時：2025 年 3 月 10 日（月）13 時 00 分～15 時 20 分

会 場：日本気象学会事務室（Web 会議方式）

出席理事：阿部彩子, 荒川知子, 稲津將, 猪上華子, 今田由紀子, 江口菜穂, 榎本剛, 笹川悠, 杉本志織, 竹見哲也, 竹村俊彦, 立花義裕, 中村尚, 早坂忠裕, 堀之内武, 渡部雅浩 以上 16 名（理事総数 20 名）

欠席理事：青柳曉典, 佐藤正樹, 原田やよい, 三好建正

出席監事：吉田聡 以上 1 名

欠席監事：川瀬宏明

その他の出席者：勝山税, 福本昌史, 萬納寺信崇（事務局）

議 題

1. 協議事項

1) 会員の新規加入について

新入会員 30, 退会 29 を全会一致で承認した。2025 年 3 月 5 日現在, 会員数 3,293 名で個人会員は 3,105 名。

2) 第 43 期第 6 回理事会議事録の確認

議事録案について, 全会一致で承認した。

3) 第 43 期第 1 回支部長会議（令和 7 年 1 月 30 日）議事概要について

全会一致で承認した。

4) 細則における役員選任候補者選出に係る規定の改定について

総会の議案とすることを全会一致で承認した。

議論の中で, 規則上は細則第 22 条第(2)項と第(7)項を悪用すると, 例えば理事候補者の定数（選挙で選ばれる人数）を小さくし, 理事候補者以外の者からの理事選任候補者の数を大きくするような恣意的な運用が理事会で可能となるのではないかと、その対策のためには第(7)項の但し書き以降を削除する必要があるのではないかととの意見があった。一方で従来どおり／現在の改定案のとおり, 急遽の不在や繁忙等の緊急事態に対応できる柔軟性もある程度残しておく観点があることも必要であるとの意見もあった。理事会では問題意識を共有することとし, 理事会が理事候補者の定数を決定する際に理事が適切に議論することを通じて恣意的な運用は行わないことを確認した。

2. 報告事項

1) WG からの報告

① 大会実施形態の移行に関する WG・・・以下の内容が報告・議論された。

- ・ 2027 年度から春季大会は JpGU と合同開催, 秋季大会のみ気象学会単独開催と

した際の WG 検討結果が報告され議論した。口頭発表は 1 件 15 分とする。口頭発表の申し込み件数を 1 件までとする WG からの提案については、申込段階から絞る必要はないのでは、専門分科会における招待講演も口頭申込 1 件になるのか議論がされ、理事会としては現状どおり発表申し込みは 2 件までとすることとする。ポスター発表は合計 240 件程度、口頭発表は 400～450 件程度、もし口頭発表の申込件数の超過が大きい場合には口頭発表を抽選にすること、発表件数や会場の制約を踏まえて対応できるよう複数パターンも想定している。秋季大会の担当グループのうち、つくば A に入っていた東大 AORI を東京 A のグループとし、つくば A は気象研のみが担当することとした。議論の結果は 2025 年度総会時に説明する。

2) 業務執行理事の報告

① 「庶務」庶務報告(第 7 回)・・・以下の内容が報告された

・ 掲載許可 (1 件)

1) 仁科淳司

【転載元】Tsuyoshi Nitta 1987. Convective Activities in the Tropical Western Pacific and Their Impact on the Northern Hemisphere Summer Circulation. Journal of the Meteorological Society of Japan, 65, 373-390. 引用する図[Fig.18]

【転載先】仁科淳司著「やさしい気候学 第 5 版」, 古今書院発行 (2025 年 5 月初旬ごろ刊行予定), 定価 2800 円, 初版 1300 部予定。

・ 後援名義等使用依頼受付 (後援: 1 件)

1) 名称: 第 13 回中部ライフガード TEC2025～防災・減災・危機管理展～

主催: 名古屋国際見本市委員会, (公財) 名古屋産業振興公社

期日: 2025 年 12 月 4～5 日

会場: ポートメッセなごや (名古屋市国際展示場)

名義: 協賛

2) 名称: 日本流体力学会 年会 2025

主催: 日本流体力学会

期日: 2025 年 9 月 17～19 日

会場: 大阪公立大学中百舌鳥キャンパス (大阪府堺市)

名義: 協賛

3) 名称: 第 42 回エアロゾル科学・技術研究討論会

主催: 日本エアロゾル学会

期日: 2025 年 8 月 27～29 日

会場: 姫路商工会議所 (兵庫県姫路市)

名義: 共催

4) 名称: No. 25-53 講習会「流体とインフォマティクス」

主催：一般社団法人日本機械学会

期日：2025 年 4 月 22 日

会場：オンライン開催

名義：協賛

- ・ 寄附者リスト (2025. 1. 30～2025. 3. 9)

なし

- ② 会計担当執行理事(第7回)・・・以下の内容が報告された
 - ・ 2025 年 1 月分, 2 月分の現預金検査
 - ・ 流動資金(運転資金)の月ごとの推移
- ③ 2025 年度「日本気象学会賞」, 「正野賞」, 「岸保・立平賞」の受賞者決定投票結果について
- ④ 第 37 回日本気象学会夏期特別セミナー (気象夏の学校 2025) 企画書

3) 委員会報告

- ① 「講演企画」・・・以下の内容が報告された.
 - ・ 2025 年度春期大会及び秋季大会に向けたスケジュール.
- ② 「天気編集」・・・以下の内容が報告された.
 - ・ 2025 年 2 月号の記事内容および 2025 年 3, 4, 5, 6 月号の予定記事.
 - ・ 「掲載料免除申請」1 件.
- ③ 「気象集誌編集」・・・以下の内容が報告・議論された.
 - ・ Vol. 103, No. 1 (2025 年 2 月)の掲載内容と Vol. 103 No. 2 (2025 年 4 月)の掲載予定論文. 審査中の論文リスト. 気象集誌については, すでに Springer による投稿システムが稼働している. 投稿数が少ないので, ぜひ投稿していただきたい.
 - ・ 気象集誌の発行形態の変更に伴い, 細則の一部改正 (Springer 移行後, 2026 年より発行が年 1 回となること, 冊子体配布に要する費用を考慮した団体 B/C 会員, 賛助/名誉会員等への取り扱い変更) の提案があった. これらについては, 総会の議事とすることを全会一致で承認した.
- ④ 「SOLA 編集」・・・以下の内容が報告された.
 - ・ 論文投稿・公開状況
 - ・ 特別号企画予定「Special Edition on Recent Advances in the Global Energy and Water Cycle Exchanges (GEWEX) Sciences」(Vol. 21A)
 - ・ 2025 年 1 月 1 日～2 月 28 日の掲載論文: 13 編
 - ・ 投稿について現システムは 8 月いっぱいまで停止し, 9 月からは Springer からの投稿受付となる. 投稿受付のための準備を進めている.
- ⑤ 「部外表彰」・・・以下の内容が報告された.
 - ・ 現在気象学会から「猿橋賞」と「文部科学大臣賞」へ推薦している. このうち「文部科学大臣賞」については, 4 月上旬に結果が発表される予定である.

また、現在募集中のものとして「日本学術振興会育志賞」、「東レ科学技術賞」があるので適任な方がいたら、推薦していただきたい。

⑥ 「気象災害」・・・以下の内容が報告された。

- ・ 4月30日に防災学術連携体が主催する「防災庁への期待」と題しシンポジウムが開催される。気象学会としても何らかの発表をしたい。

⑦ 「教育と普及」・・・以下の内容が報告された。

- ・ 「天気」への投稿について締切りを意識して早めに動くことを確認した。
- ・ ジュニア国際交流小倉助成
規程案について対象を明確化する等の修正を施すとともに、旅費補助の申請様式案や適切な周知等も含めて理事会で検討した。
- ・ ジュニアセッションの申し込み状況
2月26日現在申込4件、ポスターセッションが16時30分までとなったことからジュニアセッションの開催は16時30分から18時に変更する予定。
- ・ サイエンスカフェの今後の予定は5月6日港区みなと科学館で、7月5日横浜市民防災センターで開催予定
- ・ 夏季大学
8月9～10日に開催することとした。テーマ（案）は極端気象を予定

4) 理事長報告

- ・ 1月の支部長会議で支部の会計経理業務を本部事務局で行えないか話があり、その後どの程度学会事務局で対応できるか事務局の状況を確認した。少額の費用の支出を行う場合は手数料の方が大きくなるので厳しいが、ある程度まとまった金額であれば事務局で対応可能。学会運営について、今年の末までにはまとめ来年の支部長会議で具体的な提案して議論したいと考えている。

5) その他

以上について、議事録を作成し、理事長および監事が記名押印する。

2025年 4 月 15 日

公益社団法人日本気象学会

理事長 竹見 哲也

監 事 吉田 聡